

一九九四年は国際家族年。これを記念して十歳以下の児童を対象とした「AT MY HOME」と題する国際児童画コンテストが開かれ、附属小学校の四名の子どもたちが優秀賞に輝くという快挙を成し遂げた。

このコンテストは、ユネスコオランダ委員会・ユネスコパリ本部・陶器会社マツカム社

の連携によって行われたもので、ユネスコと提携した三十五か国の中学校から二千作品が寄せられた。国内審査分を考えると一万余の出点があった。

本校には文部省を通して参加の依頼があり、四年生以下の造形科(国画工作科)の授業で制作に取り組んで、急ぎよ応募したものであつた。

審査の結果、世界中で三作品に最優秀賞、四年生以下の造形科(国画工作科)の授業で制作に取り組んで、急ぎよ応募したものが、うち四作品が本校の受賞である。

受賞した子どもたちには、賞状、記念品(オランダの民族衣装を描いたタペストリー)、入賞作品のカラー写真が掲載されたカタログ本に加え、オランダ古来のキャンディー(!)が届けられた。また、子どもたちの作品はマツカム社によって陶器に絵付け・焼成されるとともに、一九九四年六月から九月の間、「Children from around the world at home in Makkum」と題した特別展がオランダで開催され、多くの人に鑑賞された。

今回の受賞は、造形作品における世界的な規模の展覧会で受賞したということで大きな意味があつた。しかしそれだけでなく、国際交流・国際理解という視点で考えると、参加した全ての子どもたちが、自分自身の目を世界に向けることができたことに大きな価値をもつものであった。二十一世紀をこれから創

造的に生きていく子どもたちに、魅力的なア

レゼントとなつたに違いない。

さて、フォーラムのなかでは比較的珍しい、子どもたちのニュースである。広大の子どもたちの喜びの声をぜひ、お聞きいただきたい(なお、所属は受賞時のものである)。

一部五年 山崎 茜さん

「Playing a shuttlecock with my family」

私はお父さんや妹と一緒にねつきをして

「The star festival with my family」

家族をテーマにした絵を描き始めたのは去年の今頃、寒いときでした。私が考えていた

テーマは、お正月の景色でした。でもふとクリスマスから七夕を思いつき、それをテーマにして描き始めたのです。

出来上がりの作品は我ながら上出来。でも

賞のことなど、まったく頭のなかにありませんでした。

そして自分がパツチリ覚めたような受賞の

出来上がりの作品は我ながら上出来。でも

賞のことなど、まったく頭のなかにありませんでした。

いる絵を描きました。その絵がはるばる海を越えてユネスコに行くというので、なんだかワクワクしていました。そして、ついにユネスコからお手紙が来たのです。そのときは心臓が飛び出しそうにびっくりしました。私の描いた絵が外国のお友達の絵といっしょに写っているカタログを見て、最高にうれしくなりました。いつぶんに外国のお友達がたくさんできました。くさんでした。

二部五年 別所香子さん

「Omikoshi: A palanquin-like shrine」

ユネスコの絵のコンテストで入賞したのはまるで夢のようです。三根先生が「ユネスコ



二部三年 渡辺典子さん

「Attraction of flowers」

私は造形の木村先生から、冬休み前に電話

がありました。

「四人の人に手紙が届いています」

という話でした。お母さんがそう教えてくれました。私は次の日、学校へ行つて友達の小早川さんに聞いてみました。でも、受賞の話は聞いていないようです。

もししかしたら……、もししかしたら……、学年で私だけなのかな。やつぱりそうでした。

他の学年の人といつしょでした。

しよう品がどいて全校朝会で発表された

とき、四人が校長先生の前にならびました。

そのとき、なんだか私だけ「ちびちゃん」に見えて、はずかしかったです。でも本当は、ユネスコの絵のこと、とってもうれしかった

(みね・かずなみ)

の絵のコンテストに、君たちの絵を出しましょ」と言われたとき、ぼくは完全にあきらめていきました。でも、その後「賞品にはキャンディーもあるようだよ」と言われたので、正直なところ、ぼくの心はまっしぐらに賞品目にして描き始めたのです。

ぼくはおみこしの絵を描くことにして、細かいところを注意しながら下書きをして、色をぬり、自分なりにがんばりました。出来上がりを見ると、お祭りの風景にしては納得できない部分もありました。

でも、その絵が入賞したのです！先生に呼ばれて「入賞したそうだよ、おめでとう」と言われたとき、とてもうれしかったです。

ぼくの絵が永遠に残される……。ぼくの思い出も心に残る。本当にありがとうございました。

ぼくの絵が永遠に残される……。ぼくの思い出も心に残る。本当にありがとうございました。